

The Women's Studies Association of Japan

学会ニュース

日本女性学会
第130号 2014年2月

発行 日本女性学会
事務局 〒272-0023
千葉県市川市南八幡1-16-24
TEL 047-370-6068
FAX 047-370-5051
ホームページ
<http://www.joseigakkai-jp.org/index.htm>
頒価 一部300円

目次

次回大会予告……………	1	選挙管理委員会よりお知らせ……………	4
個人研究発表・ワークショップ募集について…	1	日本女性学会2014年度「少額研究活動支援」	
大会シンポジウム 趣旨説明……………	2	対象募集のお知らせ……………	4
プレ研究会のお知らせ……………	2	会員の著作……………	4
幹事会議事録……………	3		

次回大会予告

会場：立正大学・大崎キャンパス
東京都品川区大崎4-2-16、
最寄り駅「大崎」「五反田」「大崎広小路」

大会シンポジウム：

「出産したらお辞めなさい!?——産むことをめぐる生政治」(仮)

大会日程：6月14日(土) 13時～
シンポジウム、総会、懇親会
15日(日)
個人研究発表・ワークショップ

個人研究発表・ワークショップ募集について

タイトルと発表の概要(200字程度)・発表のカテゴリー(個人研究発表、パネル報告、ワークショップのいずれか)・発表時に使用する機材(希望にそえない場合もあります)を記載して**3月27日(木曜)24時**までに、ニュースレター担当の伊田広行・飯田祐子までメールでお知らせください。**受信トラブルを避けるため、両名にお送り願います。**

飯田 祐子 / 伊田広行

ワークショップは、参加者との共同作業でテーマを発展させていく取り組みであり、個人研究発表とは性格の異なるものです。原則として複数の発表者がひとつの分科会全体(2時間程度)を担当していただきます。

個人研究発表はひとつの分科会で3、4人の方に発表をしていただきます。この組み合わせは通常応募状況に

よって幹事会で決め司会も幹事会から出しますが、あらかじめ共通テーマの方々3名以上が集まり、共同でパネル発表に応募していただくことも可能です。その場合、公平な各発表時間の配分と質問の時間を十分とることに留意いただき、テーマ、時間配分、司会者などを申込者が決めてからご応募ください。

■大学院生、非常勤講師等への旅費補助について

ワークショップ、個人研究発表をされる方で、学生、院生、OD等、常勤職についておられない方には、学会より旅費の補助を行います（総額10万円を人数と距離に応じて配分しますので、補助金額は未定です）。希望される方は、報告申込の際に、「旅費補助希望」と明記してください。

■大会におけるバリアフリー対応

大会におけるバリアフリー対応（手話通訳、文字通訳、配布物拡大コピー希望など）のご要望をおよせください。3月29日までに、庶務担当・田中かず子へお願いいたします。保育のご要望については、次号で詳細をごらんください。

2014年大会シンポジウム趣旨

「出産したらお辞めなさい!?——産むことをめぐる生政治」（仮）

シンポジスト（予定） 杉浦浩美さん・西澤哲さん・伊藤和子さん
コーディネイター 井上輝子・北仲千里

趣旨説明

少子化が問題視されるようになった頃から、「女性は子どもを産むべきだ」論が、保守派の論客や政治家から、たびたび言挙げされてきた。子どもを産めなくしている社会の現実や制度の問題を抜きにして、少子化が、あたかも、産まない女性の責任であるかのごとき言説が流布している。その最たる例が、昨年（2013年）に政府が提案した「命と女性の手帳（仮称）」である。多くの女性たちからの批判を受けて、手帳配布案自体は、取り下げられたものの、森雅子少子化対策担当大臣は、手帳という形にはこだわらないが、若い女性たちに、妊娠・出産の知識を広める必要はあるとして、学校教育やインターネットを通じての普及に意欲を示している。「女性は子どもを産むべきだ、しかも30代前半までに」の掛け声は、子どもを持たない多くの女性たちに、社会的、心理的圧力を与えている。

それでは、妊娠した女性や、出産した女性を、社会はやさしく支えてくれるかといえば、そうではない。「若いうちに産め」と言われても、10代で妊娠した女性た

ちには、学校中退などを余儀なくされ、その結果、より険しい人生を強いられる例も多い。働く女性が妊娠すると、同僚や上司からの「マタニティ・ハラスメント」を受けて、退職に追い込まれるケースも、枚挙にいとまがない。

公的な場での女性の活用が謳われ、「ワークライフバランス」や「イクメン」は称揚されるようになったとはいえ、一方で、時代錯誤な「産休はわがまま」という声が出ているような企業風土や、育児休業制度を活用できない非正規雇用の女性たちが大半であるという現実もある。曾野綾子による「出産したらお辞めなさい」「産休制度は会社してみれば迷惑千万な制度」などの議論がもてはやされる風潮が、日本社会の底流にあることは無視できないだろう。

こうした「産むこと」をめぐる、日本社会の現状と問題点を、学校現場や女性の働く職場の実情を明らかにしつつ、制度や政策のあるべき方向を模索することをめざして、シンポジウムを企画した。

プレ研究会のお知らせ

大会シンポジウムに向けて、下記のとおり、プレ研究会を開催いたします。

皆様ご参加下さい。

日時：3月30日（日）11時～13時

場所：大正大学 2号館 6階 人文閲覧室

所在地：東京都豊島区西巣鴨3-20-1

・都営地下鉄三田線 西巣鴨駅下車 徒歩2分

日本女性学会 2014 年度 「少額研究活動支援」対象者募集のお知らせ

日本女性学会では、常勤ないし正規雇用契約をもたず、研究財源の確保に困難をかかえている会員の研究活動を支援することを目的に、「少額研究活動支援」を創設しました（2011 年度総会承認）。要件に該当する会員を対象に、研究活動支援金を支給します。下記の通り、2014 年度の支給対象者を募集します。

金額はささやかな支援ですが、学会による審査制の研究資金ですので、採択された方はキャリアに役立てていただけます。ぜひ活用ください。

記

内 容 対象者の日本女性学会の趣旨に沿った活動に対し、1 人あたり 3 万円の研究活動支援金を支給する

対 象 常勤ないし正規雇用契約をもたない会員 10 名

応募要件

- (1) 前年度までの会費が納入されていること
- (2) 日本女性学会会員の会費区分 6000 円の者
- (3) 常勤ないし正規雇用契約下でないこと
- (4) 日本学術振興会特別研究員でないこと

応募方法 日本女性学会ウェブサイトにも備える応募用紙により日本女性学会事務局宛郵送

応募締切 2014 年 4 月 30 日（水）締切

詳細および様式 日本女性学会ウェブサイト

選挙管理委員会よりお知らせ

今回、ニューズレターとともに、会員名簿と、投票用紙と返信用封筒および投票要領を同封しています。学会の正常な運営は、多くの会員の方の投票によって選ばれる幹事会によってなされることが必要です。3 月 24 日（当日到着分まで有効）までに、会員の皆様はぜひ、投票用紙に記入の上、返送していただきますよう、お願いいたします。

日本女性学会 第 18 期選挙管理委員会

会員の著作

- ・ 吉原令子『アメリカの第二波フェミニズム：1960 年代から現在まで』ドメス出版、2013 年 12 月
- ・ ミリアム・グラックスマン『「労働」の社会分析 時間・空間・ジェンダー』（木本喜美子監訳・石井香江他訳）法政大学出版局、2014 年 2 月